

政治学概論Ⅰ

(12) 保守とリベラル
右と左の政党・政治勢力

伝統と改革

◆フランス革命（1789～）時、議会で急進的な改革を求めるグループが議場の左側に陣取る＝「左翼」の発祥

国王の処刑・ジャコバン独裁、ロベスピエールの恐怖政治
地主貴族層を壊滅させ、特権を否定「ラ・マルセイエーズ」

◆伝統を重んじ現状維持を望むグループ＝「右翼」

※バークのフランス革命批判＝保守思想の形成

◆人権・平等思想を原理とする急激な改革志向

⇔それを危険視する考えの政治的な対立　＝左右の分岐

労働者と社会主義

- 産業革命後、マルクス・エンゲルスの資本主義批判
階級史観「資本家と労働者」⇒左翼思想に大きな影響
⇒社会主義・共産主義を目指す政治路線「プロレタリア独裁」
ロシア革命（1917年～）とソビエト連邦誕生
- 20世紀後半にかけて、非民主主義国の多くが社会主義化
民主主義国でも左派政党（労働者政党）が影響力を持つ
再分配と福祉国家化に関する資本家と労働者の合意
「社会民主主義」路線＝企業と市場を認めてコントロール
ケインズ（アメリカ経済学者）の再分配経済政策

社会主義の挫折と冷戦終結

■自由民主主義国＝左派政党と右派政党 日本の「保守と革新」

■社会主義国＝一党独裁、全体主義的な体制 「自由」の否定

⇒東西冷戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争

「黄金の30年」の経済成長 石油危機と「成長の限界」

社会主義国 ブロック経済 停滞から衰退へ

軍拡競争の疲弊、冷戦の終結（1989年）⇒ソ連邦と「東側」解体

※「社会主義」の有用性否定、福祉国家の行き詰まり＝新自由主義

資本主義の再起動・再分配の見直し

「リベラル」と人権

■ 穏健左翼⇒リベラル（自由）平等志向、人権重視
経済的な自由 新自由主義的な「改革」

■ 日本の左派「革新」⇔「保守」が一貫して政権
⇒リベラル（安全保障問題からジェンダー、格差へ）
労働組合の衰退 「無関心層」は保守に効果

■ リベラルのポリティカル・コレクトネス（PC）
左派的な政治的原則と、それに対する反発